【玄　　関】

資料館へようこそ　　「かさまるくん」と「かさまるちゃん」が出迎える。

【エントランス】

玄関を入ると、笠松湊のにぎわいを再現するジオラマと絵図で笠松ワールドに引き込まれる。

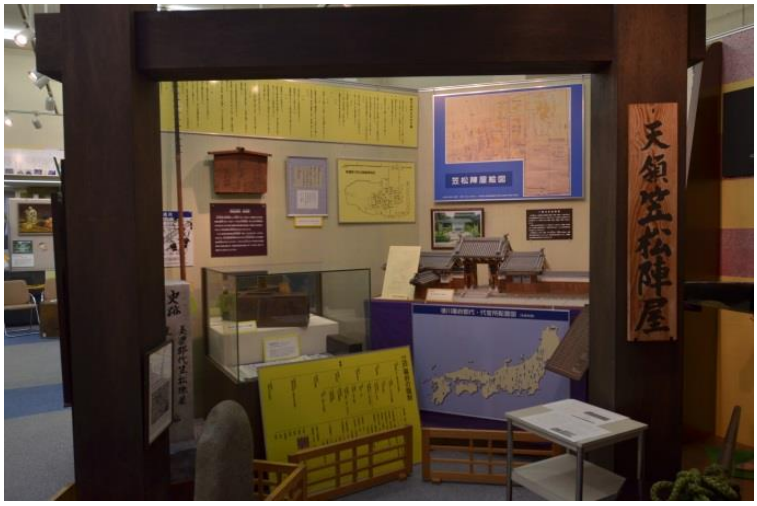
【展示１】笠松のあけぼの

天正 14 年（1586）木曽川の河道の変更で村が水没。昭和の時代に入って、川底からマガキの化石と縄文時代から江戸時代までの生活痕が出土した。

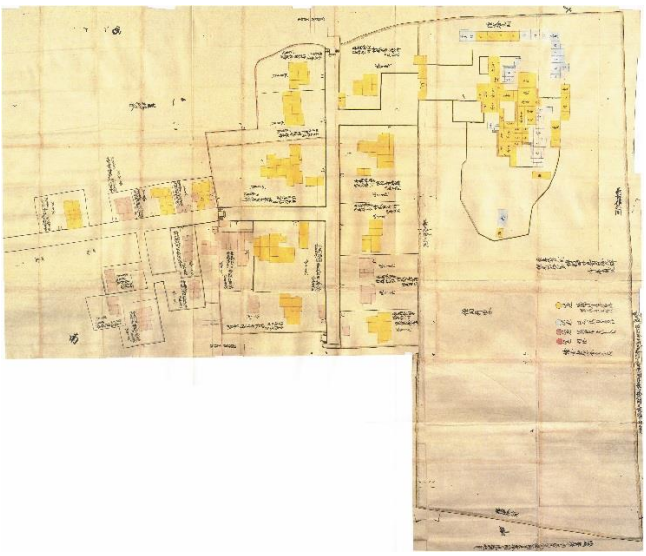
【展示２】町の伝統芸能

県の重要無形民俗文化財に指定されている「円城寺芭蕉踊」と「笠松大名行列お奴」は、保存会によって継承されている。

【展示３】政治の中心地



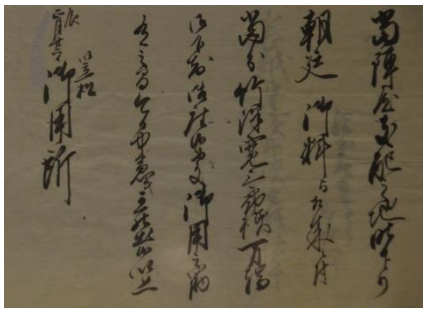
江戸幕府の直轄地として栄えた笠松。笠松陣屋は、郡代が政治を司る役所として置かれた。



およそ１ha ほどの敷地をもつ笠松陣屋。

［絵図は名古屋大学附属図書館所蔵］

現在は、北西角に往時を偲ぶ陣屋公園がある。



「朝廷御領」となる告知板（明治元年）　［個人蔵］

【八幡神社】

八幡神社は、時の権力者・領主から敬愛される神社であった。美濃郡代が赴任するたびに八幡神社に詣でた。

第 11 代将軍徳川家斉から贈られた御前幕
（寛政元年）

加納藩主から寄進された
時鐘（寛永７年）

土岐頼益から瑞應寺に寄進
された懸仏（15 世紀初め頃）
［３点とも八幡神社蔵］

【展示４】川湊を中心に栄えた商工業

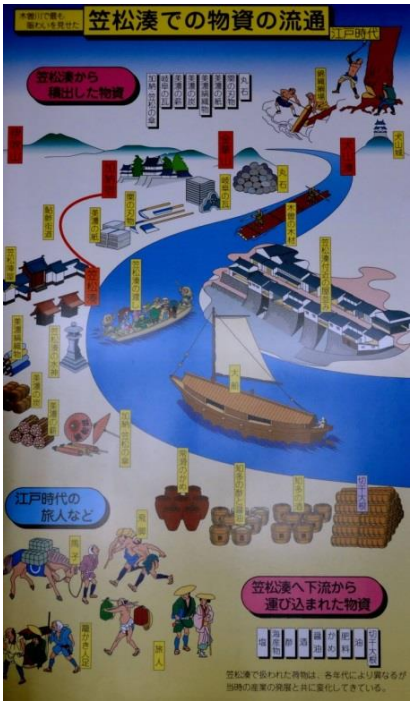
明治から昭和にかけて笠松湊を中心とした地域に商店や問屋が建ち並んだ。繁栄の跡を記憶にとどめる。

味噌溜を販売した商家を再現。店の商標、帳場机や大福帳、灯りや火鉢がならぶ。

にぎわいのあった頃の商店の写真。色あざやかな引札が色を添える。

笠松湊は、美濃における木曽川流域最大の湊だった

荷を運んだ大船模型（実物 1／10）



笠松湊は、各地の物資が流通する美濃の拠点であった。湊からは、丸石・刃物・瓦・紙など美濃の産品が移出された。また下流からは海産物・塩・酢・酒などの産品が移入され、美濃の各地へと搬出された。

明治に入り、美濃縞は織物の主力として織られた。

この地方には、手織りの機械がある家が多かった。女性たちの内職として、盛んに織られた。

美濃縞の反物（部分）

江戸時代から始まった家内制織物業は、明治に入り急激に増加した。美濃縞は、日本の織物業界をリードする地位を築いた。

【まちの駅】

「まちの駅　歴史の館」。

来館者の憩いの場として、来館を歓迎する。

休憩・語らいの場として利用される。

小学生から一般まで多くの人たちが歴史民俗資料館を訪れた

町の歴史や文化財を訪ねる企画にも多くの人たちが参加した

（　）内は撮影日

企画展「笠松の地形」の展示に見入る
来館者と展示説明を行う館員
（２０１３年１０月６日）

私のコレクション「紙紐バンド細工」
ラジオ局の取材を受ける出品者
（２０１３年５月１７日）

企画展「伊勢型紙」の体験コーナー
大勢の人たちが伊勢型紙を体験する
（２０１３年９月１５日）

歴史探訪「専養寺を訪ねて」
住職と熱心に秘蔵品に見入る参加者
（２０１３年６月２２日）

「大船」模型の制作者が
テレビ局の取材を受ける
（２０１３年７月１０日）

笠松の歴史を学ぶ小学生
町内の小学生たちが展示品を見学する
（２０１３年３月５日）